

3つの産地によるあつい展示会「HOT」

— 産地間技術連携の一步 —

協同組合福岡・大川家具工業会青年部【FIYOUTH】は40周年記念事業として、4月13日（土）～14日（日）に大川産業会館で催された「春の大川木工まつり」の目玉企画として、焼物のまち・長崎・波佐見<HASAMI>、木工のまち・福岡・大川<OKAWA>、鋳物のまち・富山・高岡<TAKAOKA>と連携し、三産地の頭文字を取ったあつい展示会「HOT」を開催しました。

この展示会は、一部福岡県中小企業団体中央会の支援を受けて実施しました。

3つの産地によるあつい展示会「HOT」は、大川の地方創生補助事業OKAWASHIPのプロデューサーでもある、伝統技術ディレクターの立川裕大氏監修の元、立川氏がリブランディングで関わられた産地を繋ぎ、各産地の想いの元、新しい産地の在り方を模索することを目的とし企画されました。



EXHIBITION & MARKET

主な企画は3つ。1つめはEXHIBITION & MARKETで、メイン会場となる大川産業会館2階の34小間（13.5m×7.2m）を活用し、波佐見、大川、高岡の伝統技術を展示。さらに、ブース内では、あだち珈琲やTAGSTAによる珈琲や焼き菓子、townzのチーズケーキ等を、波佐見焼や高岡の鋳製のテーブルウェアを使って、大川のテーブルや椅子に腰掛けてゆったり楽しめる【カフェ】空間を作りました。

2つめは、WORKSHOPで、大川産業会館正面玄関入り口横のスペースを使用し、各産地のワークショップを開催。波佐見は転写シールワークショップ、大川は大川木工教室、高岡は鋳アクセサリー製作体験等を開催し、参加された方、特

に子供達に大変喜ばれました。

3つめは、SYMPOSIUM & PARTY。【産地の未来】をテーマに、立川氏をモデレーターに迎え、3産地から登壇してもらい、トークセッション形式にてシンポジウムを実施しました。歴史・文化・ブランドの確立・技や製品づくり等、各産地の取組を紹介され、今後産地が発展していくための新たな取組みについて熱く討議を行いました。

最後に、今回3産地の連携でしたが、日本には経産省指定の伝統工芸品が232品目もあるにも関わらず、産地間の技術連携は殆ど行われていないのが実情です。小さな小間で行われた展示会ですが、波佐見・大川・高岡の3産地が協力し、作り上げたこの取り組みは、これまでにない産地間の技術連携であったと思われます。また、展示会でそれぞれが出展するのではなく、各産地が調和し、カフェスペースという「見て、触れて、体感できる」という付加価値を付けることで、来館者のイメージを変革することに繋がったと思われます。これは、これからの産地の、未来の希望を生み出す第一歩になるのではないのでしょうか。



カフェメニューの一例